

<b>並列節</b>		複文で主節に対して対等に並ぶ節。順接的並列の総記とは、当該するものを全て並べる表現。 主節に対して、独立度が高い節である。 独立度が低い場合は従属節という。			主語と述語のペアを節という
<b>順接</b>	総記	連用形接続	太郎がギターを弾き 花子が歌を歌った。 花子が歌を歌い 太郎がギターを弾いた。	[順接の並列節は主従関係がないので入れ替え可能] [連用形接続は文語的/テ形接続は口語的]	
		テ形接続	太郎がギターを弾いて 花子が歌を歌って 太郎がギターを弾いた。	部屋が広くて 綺麗だ。 形容詞+形容詞 部屋が広いや 綺麗だ。 非文：並列助詞 N+N	
	例示	休みの日は音楽を聴いたり 映画を見たりする。	[たりは主節にも表れる]		
	累加	彼は体も大きいし 力も強い。	入学は易しいが、卒業は難しい。 [並列/対比]		
<b>逆接</b>	接続助詞	兄は野球が好きだが 弟はサッカーが好きだ。	毎日勉強したが 試験に落ちた。 [逆接条件][因果関係]		
	否定のテ形接続	議員が来ないで 秘書が来た。	毎日勉強したので、 試験に合格した。 [順接][因果関係]		
		議員が来ずに 秘書が来た。	※逆接「が」は主節と従属節節の文体を合わせる必要がある		

<b>逆接</b>	対等な関係にある2つの事柄を結びつける表現。ある事柄から別の事柄が成立すべきだと考えられるのに、その期待が裏切られるという意外感を示す。けどくけれどくけれども つつ=つつもは同じ		
<b>けれど</b>	毎日教えた、 疲れた	けれども けど/けれど/けれども	まだできない。 まだ休めない。
<b>つつ</b>	危険を知り 危険を知り 失敗を重ね	つつ つつも つつ	乗り込んで行った。 乗り込んで行った。 前進していく。
<b>ながら</b>	知ってい 悪いと思 テレビを見	ながら ながら ながら	知らないふりをした。 断った。 夕食をとる。
		<b>のに</b>	若い 試験に落ちた 事情を知っていた 事情を知ってい
		<b>にもかかわらず</b>	年齢 出席欠席 注意された 挨拶した
			のに のに のに て にかかわらず にかかわらず にもかかわらず にもかかわらず
			元気がない。 悔しくない。 なぜ黙っていたの。 なぜ黙っていたの。 尊敬できる人はいる。 参加費はかかる。 彼は漫画を読んでいる 無視された。

<b>従属節</b>		主節に対して従属的な関係で結びつく節。 終助詞は、引用節を除いて従属節内では使うことができない。	節とは述語とその項からなるひとまとまり		
<b>補足節</b>	述語を補足する名詞としての役割を持った節。名詞節。	<b>従属節の独立性 従属節の従属度</b>			
	形式形容詞	漢字を覚えることは難しい。 漢字を覚えるのは難しい。	<b>独立性低 = 従属度高い 付帯条件の「ながら」</b> 本を読みながら、ご飯を食べた。[主語/テンス/モダリティを主節に依存]		
	引用節	彼はすぐ行くよと言った。 ※引用節内では終助詞(对人的モダリティ)が使える。	<b>中程度独立性 = 中程度の従属度 条件の「なら」</b> 君が行くなら、私も行きます。[従属節に独自の主語がある]		
	疑問節	いつ出掛けるかが重要だ。	<b>独立度が高 従属度低 原因の「から」</b> 明日は雨だから、試合はありません。		
<b>連体節</b>	述語を含む、名詞を修飾する節。	<b>独立性高 = 従属度低 逆接の「が」: 丁寧度を主節に合わせる必要がある。</b> 雪が降っていますが、寒くないです。[丁寧度が従属節に及ばない]			
	内の関係	かぐや姫に求婚した人	<b>独立度高 従属度が極めて低い 直接引用節の「と」</b> 「私は田中さんがふさわしいと思う」と彼が言った。		
	外の関係	かぐや姫に求婚した話 昨日買ったリンゴ			
<b>副詞節</b>	原因理由	事故があったので、遅れました。	<b>従属節内の「は」と「が」</b> 従属節内では基本的には「は」は表出しない		
	付帯状況	本を読みながら、ご飯を食べる。			
	条件	(順)雨が降れば延期する (逆) 勉強したが不合格だった	独立性 低	連体修飾節	太郎が撮った写真があった。 「は」は出現しない
	時間	テレビを見ている時に、電話が鳴った。		副詞節	太郎が高校生の時に引っ越した。 「は」は出現しない
	目的	教師になるために、勉強している。	独立性 高	並列節	水は飲みますが、お茶は飲みません 「は」が表出
	様態	みんな驚いたように、私を見た。		引用節	この小説は面白いと思います。 「は」が表出

<b>補足節</b>	<b>引用節</b>	従属度は極めて低く、独立性が高い。 引用節内では「は」が使える 引用節内では終助詞＝対人的モダリティが使える。
間接引用 言う 思う 考える	この小説 <b>は</b> 面白い <b>と</b> 思います。 彼 <b>は</b> 行くよ <b>と</b> 言いました。 彼は祝賀会に行かない <b>と</b> 言った。 この問題に取り組みたい <b>と</b> 思う。 この会社を辞めたい <b>と</b> 考えている。	<b>思考を表す間接引用の「と」は従属度が高く[普通体]になる。</b> 丁寧体 私は無理 です <b>と</b> 思う。 × 非文 普通体 私は無理 <b>だ</b> <b>と</b> 思う。 ○ 私は無理 <b>だ</b> <b>と</b> 考える。 ※従属度の高い従属節内は普通体になる。
	直接引用	妹は「水が飲みたい」と言った。
直接引用から 関節引用への書き換え	首相が「消費税を引き <b>上げます</b> 」と明言した 首相が消費税を引き <b>上げる</b> と明言した。 ※引用節内では丁寧体が普通体変更される。	

<b>補足節</b>	<b>疑問節</b>	「か」「かどうか」で名詞化された疑問の意味を持つ節のこと。 疑問節の後に「ガ格」を置けるか。
かどうか	好き <b>かどうか</b> <b>が</b> 重要である。 続ける <b>かどうか</b> <b>が</b> 問題だ。 間に合う <b>かどうか</b> <b>が</b> 心配だ。 正しい <b>かどうか</b> <b>を</b> 調べる。	異なる表現をする文体 疑問文で注意を表す。 どうして、最近遅刻が多いのですか？ 疑問文で依頼を表す。 ちょっと手伝ってもらえませんか？ 平叙文で警告を表す。 ここへの駐車は金5万円を申し受けます。 命令文で祈願を表す。 雨よ降れ！
	か	どこに <b>おいた</b> <b>か</b> 分からない

<b>譲歩</b>	後件が前件に縛られない関係。
テ形+も	雨が降っても、 実行する 謝っても
タ形+って	雨が降ったって、 実行する 謝ったって
辞書形+としても	雨が降るとしても、 実行する 謝るとしても
タ形+としても	雨が降ったとしても、 実行する 謝ったとしても
タ形+ところで	雨が降ったところで、 実行する 謝ったところで

副詞節	条件節	二つの事態の間の仮定的な因果関係を示す。 テンスが無い=時制が無い=ルとタの対立が無い。 [ヴォイス][アスペクト][丁寧形][肯定否定]は現れるが[テンス]は現れない。 例外：反実仮想「タ形+なら」：テンス	
丁寧形OK	反復的・恒常的に成り立つ関係=前件が起これば通常後件が起こる。	丁寧形OK	事態の実現に重きを置いた表現。
と	自然現象 春になると、桜が咲きます。 機械操作 ボタンを押すと、電気がつきます。 過去の出来事 目を覚ますと、知らない人の部屋にいた。 発見 改札を出ると、大きな壁画があった。 □後ろに「意志」「勧誘」「命令」は来ない。 学校が終わると塾に行く。(○) *学校が終わると塾に行こう。(×) *学校が終わると塾に行け(×)	たら	□特定の/一回的出来事 雨が降ったら、運動会は中止です。 この仕事が終わったら、温泉に行こう。 □前文が仮定なら「ば」と置き換え可能。 お金があったら本を買う。=お金があれば本を買う。 □後ろに「意志」「勧誘」「命令」が来る。 休みになったら、旅行に行きます。 休みになったら、旅行に行きましょう。 休みになったら、旅行に行きなさい。
丁寧形不可	前件を条件として、後件が成り立つという順接の一般的法則を示す。	丁寧形不可	[仮定条件]と[反実仮想]の2つがある。
ば	ことわざ ちりも積もれば、山となる。風が吹けば、桶屋が儲かる。 仮定条件 今すぐ出発すれば、間に合うでしょう。 □動作動詞の後ろに「意志」「勧誘」「命令」は来ない。 外に出れば、マスクをつけます。(×) 外に出れば、マスクをつけましょう。(×) 外に出れば、マスクをつけなさい(×) □前件が状態述語の場合は、「意志」「勧誘」「命令」が来る 信号が青ければ、渡ります。 雨が降れば延期する 信号が青ければ、渡りましょう。 雨が降れば延期しよう 信号が青ければ、渡りなさい。 雨が降れば延期しろ □前件と後件の主語が違えば、「意志」「勧誘」「命令」が来る 両親が許してくれれば、一人暮らしします。 両親が許してくれれば、結婚しましょう。 両親が許してくれれば、すぐ連絡ください。 □事実、すでに起こっていることには使えない 昨日、ボタンを押せば、電気がつきました。(×) 昨日、ボタンを押すと、電気がつきました。(○)	なら	□仮定条件を表す「なら」：後件を述べるために導く節 君が行くなら、僕も行こう。 中程度の従属度。 仮定条件：なら節が成立すれば □反実仮想を表す「なら」：事実でないことを想定する。 Point→ <b>[タ形]+「なら節」で反事実を明示する。(テンス出現)</b> 「もし」「かりに」「のに」「どころだ」と共起す <b>もし空を飛べたなら、君の元に飛んでいけるのに。</b> □「なら」の後ろに自分の気持ちが来る。 □後ろに「意志」「勧誘」「命令」が来る。 君が食べるなら、僕も食べる。 家にいるなら、手伝ってくれ。 試験があるなら、勉強しろ。 □「なら」「たら」の時間の前後関係 「なら」前文→後文とならない。 乗るなら、飲むな。 [飲む]-[乗る] 飲んだら、乗るな [飲む]-[乗る]